

# ミネベア株式会社 中間決算説明会資料

平成12年11月10日

代表取締役社長 山本次男

## 2000年9月中間期計画・実績対比

(単位:百万円)

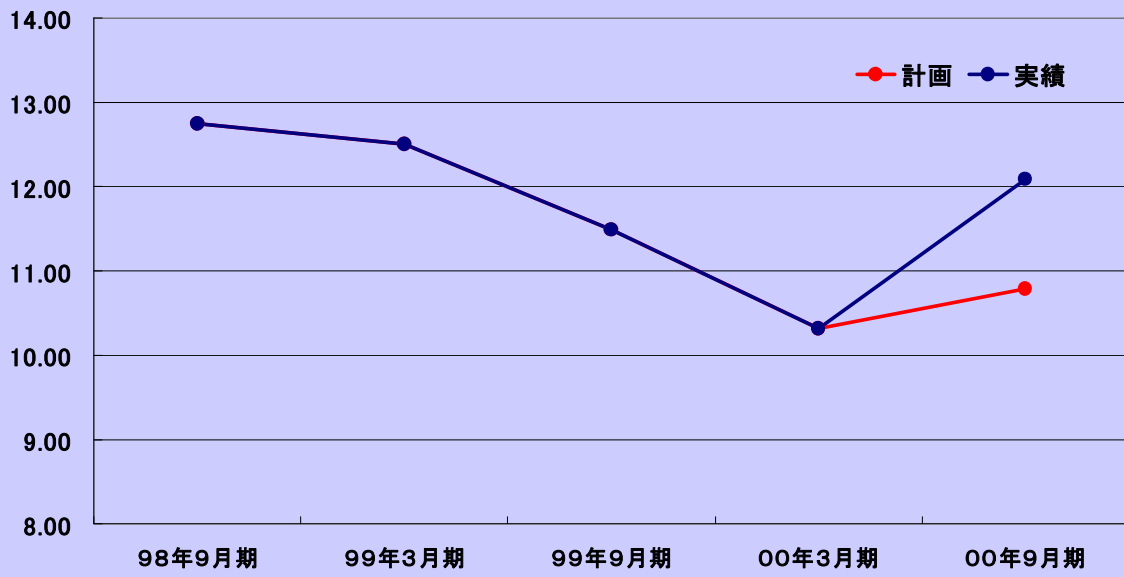
	計画	実績	達成率
売上高	139,000	142,124	+2.25%
営業利益	15,000	17,177	+14.51%
経常利益	10,000	12,987	+29.87%
当期利益	6,000	7,084	+18.07%

2000年9月30日に終了した中間決算の結果は上記の通りです。

対計画比では、売上高が2.25%アップ、営業利益が14.51%アップ、経常利益は29.87%、当期利益は18.07%アップと計画を大きく上回る実績をあげる事ができました。

### 半期毎の売上高営業利益率の推移

(単位：%)



売上高営業利益率は12.1%と、前期実績の10.9%と比べ1.2%改善致しました。

## 製品セグメント

(単位:百万円)

		99/9中間期	→	00/9中間期
機械加工品	売上高	64,515	→	60,953
	営業利益率	*17.2%	→	19.7%
電子機器	売上高	73,324	→	75,472
	営業利益率	*5.6%	→	6.2%
流通販売他	売上高	5,325	→	5,699
	営業利益率	*7.5%	→	9.3%
合 計				
	売上高	143,164	→	142,124
	営業利益率	*10.9%	→	12.1%

\* 2000年3月期1年間の実績

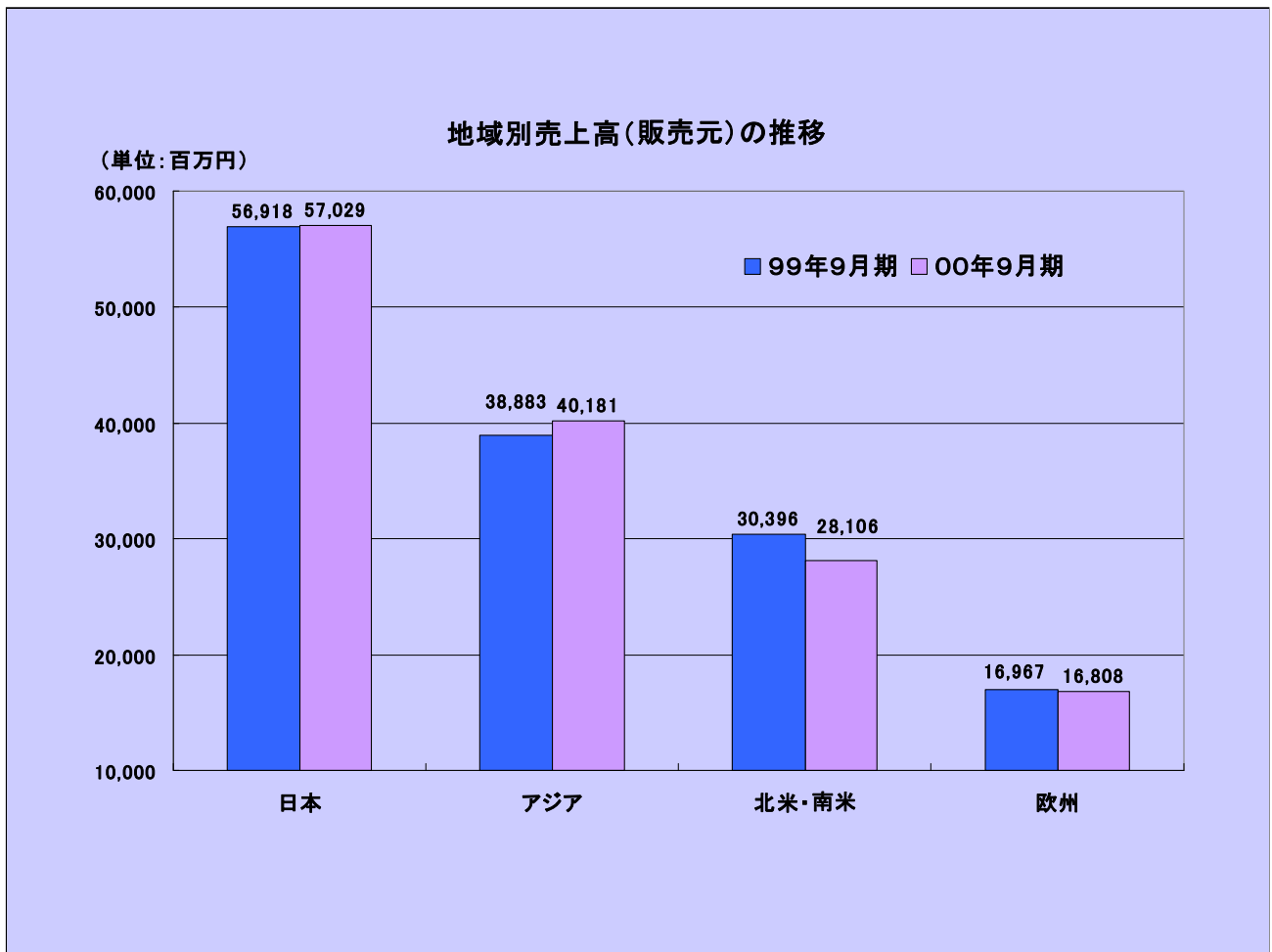
### <機械加工品>

売上は、主として円高による海外売上高円換算額が目減りにより、前年同期に対して35億6,200万円の減少となりました。営業利益率は、ベアリングの増産の効果により19.7%となり、前期1年間の同部門の平均営業利益率に対し2.5%改善しました。

### <電子機器>

売上高は、円高による目減りの影響があったにも拘わらず、前年同期より21億4,800万円増加し、営業利益率も前期1年間の平均営業利益率に比べ0.6%改善することができました。

電子部品の利益率が改善できた理由には、6月以降のスピンルモーター部門の黒字化、FDDヘッドをはじめとするデバイス関連製品の利益率の改善、キーボード・スピーカー等の平均販売単価の維持などが挙げられます。



#### <東南アジア>

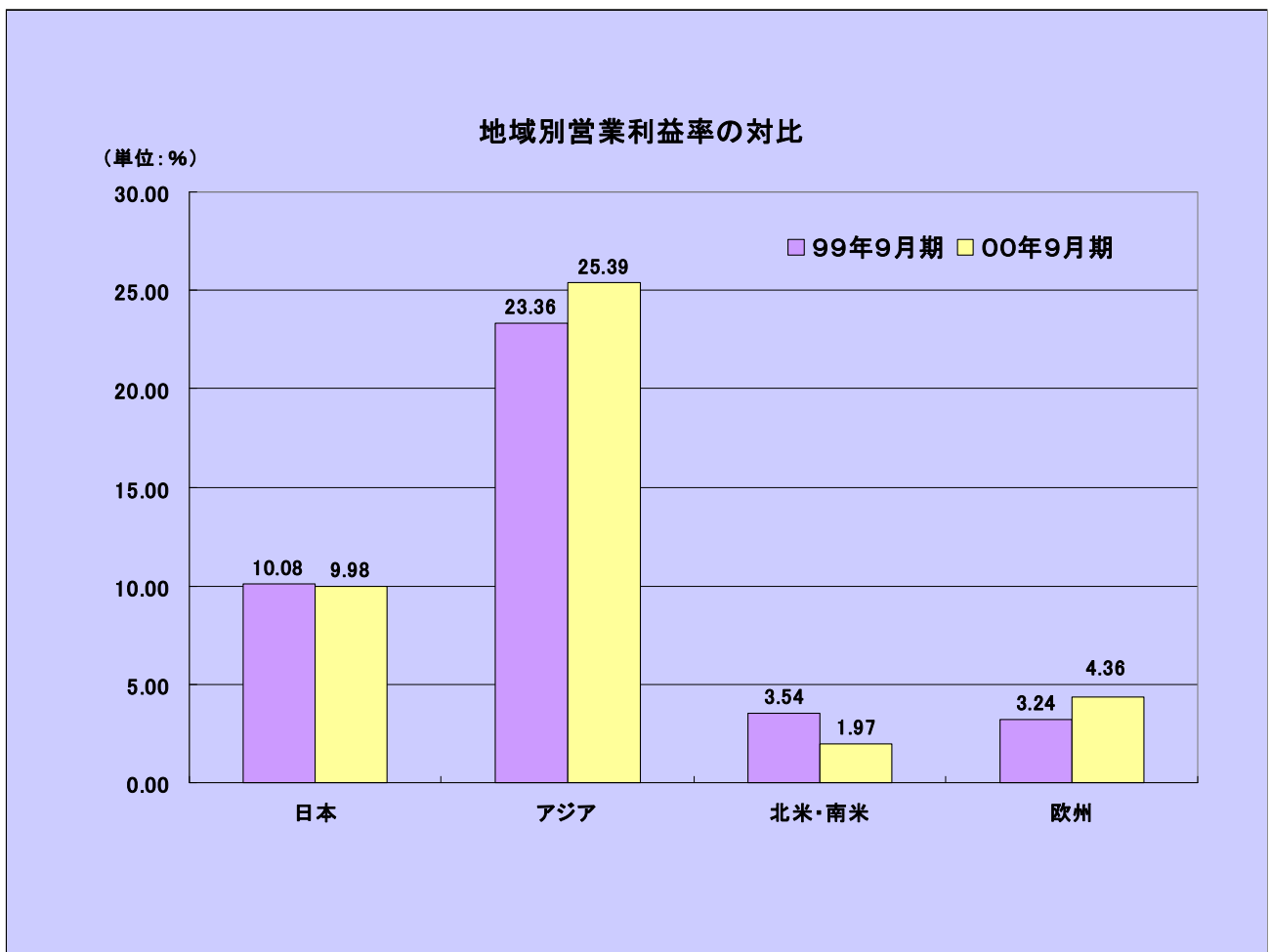
売上高は、前年同期から12億9,800万円伸びており、営業利益率も前年同期比2%以上増加しています。

顧客の東南アジアへのシフトは今後も続くと予想されますので、同地域での販売比率が増えるに従い、タイを中心とした東南アジア市場に大きな生産拠点を持っている当社の優位性は増してゆくものと考えます。

#### <日本>

お客様の多くが生産の海外シフトを行ったため、その分の売上は減少致しましたが、営業努力により、売上高は前年同期を上回りました。

今中間期の日本の営業利益率は9.98%と10%を切っていますが、当社の場合、日本の営業利益率は大体10%程度と考えます。



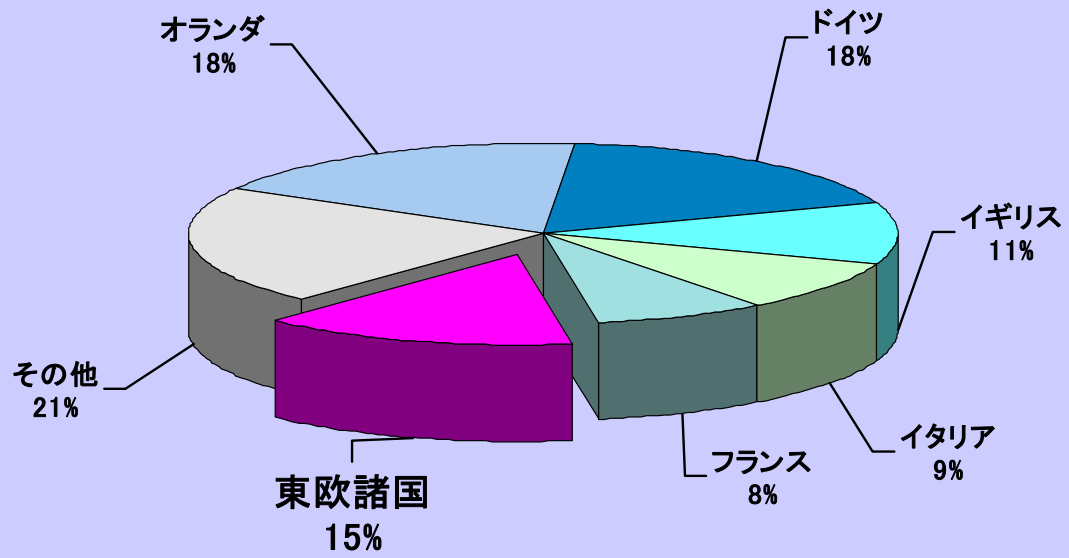
#### <米国>

主として、航空機業界向け製品の低迷及び円高による円換算額の目減りにより、売上は前年同期比約22億円減、営業利益率は約2%となりましたが、8月以降航空機業界からの受注は好転してきています。

#### <欧州>

円高の影響により、売上高は前年同期比1億5,900万円減少致しましたが、現地通貨ベースでの売上高は増加しています。特に東欧向けが堅調です。直近のデータでは欧州全体における東欧諸国での販売割合が15%となっています。

## 欧州国別販売シェア(2000年9月中間期実績)



## 今期業績見込み

(単位:百万円)

	上期実績	下期見込	通期合計	計 画
売 上 高	142,124	151,000	293,124	290,000
営業利益	17,177	18,000	35,177	33,000
経常利益	12,987	14,000	26,987	24,000
当期利益	7,084	8,000	15,084	15,000

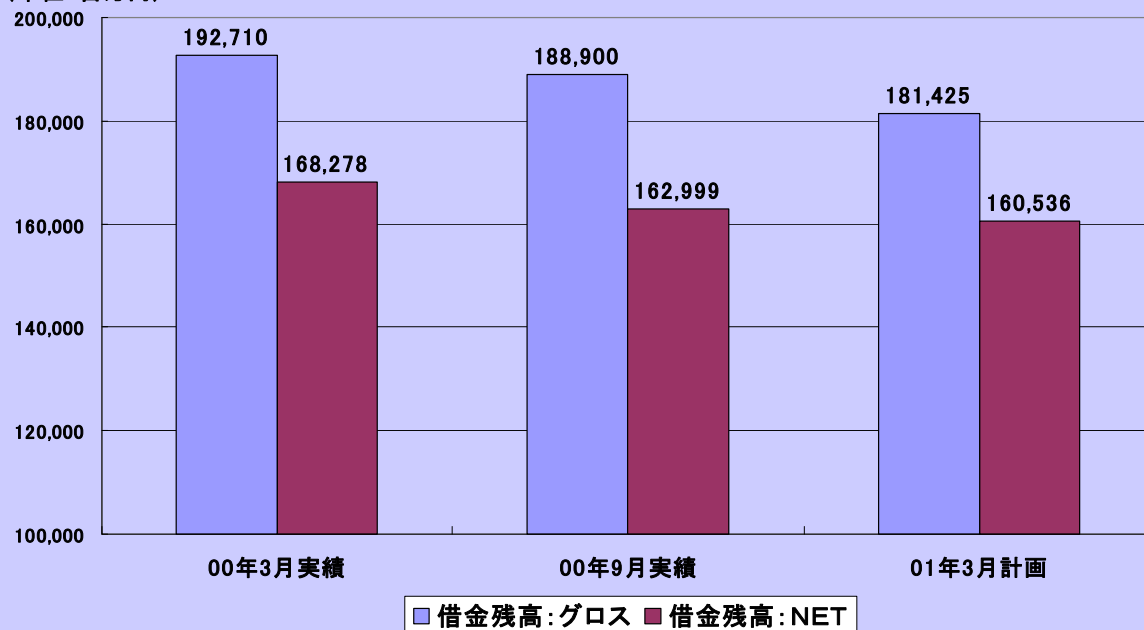
上期は計画を大きく上回る業績をあげる事が出来ましたが、現時点では未だ下期の見込みを上方修正する必要はないと判断し、当面、下記の数字は当初計画のまま据え置かせて頂きます。

なお、当期利益については、前期末の説明会で公表した数字より10億円減額しておりますが、これは、本年6月30日にデスクローズ致しました、本年12月末に啓愛社NMBとの販売特約店契約を解消する費用として約10億円見込まれる為です。



## 借金残高推移見込

(単位:百万円)



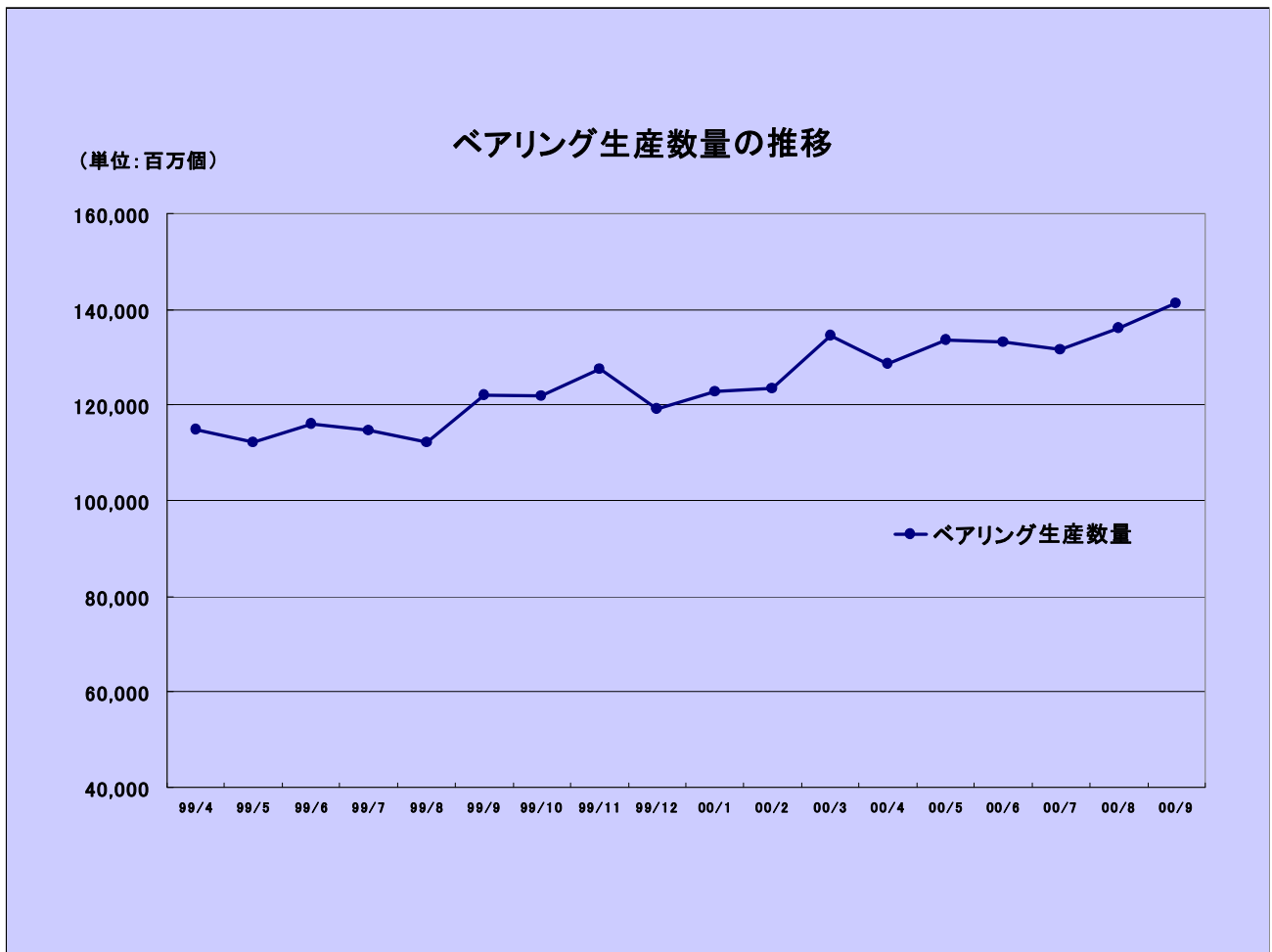
今上期は、ベアリングをはじめとする各種製品の増産などにより、棚卸資産が前期末に比べ約50億円増加した上、設備投資もかなり前倒して行う事となりましたが、9月末時点のNET借金残高は1,629億9,900万円と、前期末比52億7,900万円減少させることができました。

## インセンティブワラントの概要

発行目的	3カ年計画達成の為の中堅幹部の 参加意識の高揚
付与対象者	約980人
行使価格	1,350円
行使期間	平成15年5月20日～平成17年9月30日
発行株式総数	296万株(発行済株式の0.7%相当)

本年11月1日、ストックオプション方式によるインセンティブプランを導入致しました。

3カ年計画達成の為の全社的な取組みには、中堅幹部全員の参加意識の高揚が必要不可欠である為、付与対象者は、ミネベア(株)の役員、係長以上の従業員及び海外子会社の一部の役員、並びに特定幹部従業員の合計約980人と幅広いものと致しました。



#### <ベアリング>

3ヵ年計画では、今期の生産見込みは月平均1億3,330万個、本年中に生産能力を1億5,000万個へ増加させるとし、下期の比重を大きくしてありましたが、既に、上期の実績は月平均1億3,500万個を達成しています。

1億5,000万個への生産能力増強を行うための設備の搬入は、現在予定通り行われていますので、今期通期での総生産数量は16億個を十分上回ると考えています。

## ファンモーターの現状

生産数量	現状 500～600万台/月 ⇒ 1,000万台/月体制へ
新工場建設	上海に新工場建設(投資額48億円、 一部ベアリング関連投資を含む) 2001年7月竣工予定
新規需要	ヒートシンク付チップクーラー 通信機器用大型ファン/ファントレイ

### <ファンモーター>

現在ヒートシンク付きチップクーラーや通信機器用大型ファン及びファントレイの需要が急増しており、総生産数量も月産500万台を大きく超えています。

2001年7月竣工予定で上海ファンモーター工場の隣に新工場を建設する事と致しました。新工場には、ファンモーターの増産設備の他、現在別工場にあるベアリング用ラバーシール生産ラインと治具・工具生産ラインを移設し、合わせてそれらラインへの追加投資を行います。設備投資総額は約48億円であり、これは3ヵ年計画上来期及び再来期に予定していた設備投資の前倒し実行となります。

同工場の完成により当社のファンモーターの生産能力は、月産1,000万個に引き上がります。

## HDD用スピンドルモーターの現状

### 生産数量

2.5インチは大手4社全てに納入が確定  
12月末時点で月産350万個達成の見込み

### 損益状況

本年6月より黒字転換済み

### 流体軸受及び同軸受搭載スピンドルモーター

11～12月に量産開始

#### <HDD用スピンドルモーター>

2.5インチHDD用スピンドルモーターに関しては、既に大手4社からの受注が決まり、生産がスタートしております。全てROベアリング搭載のモデルです。11月の総生産数は320万台、12月は350万台に到達する見込みです。

損益的には、6月以降黒字に転じており、これが電子部品部門の営業利益率改善の一つの要因となっています。

また、流体軸受搭載のHDD用スピンドルモーターの量産に向けた準備も順調に進んでいます。これも当初予定通り、11月中、遅くとも12月には量産が開始できる見込みです。

## 自動車用回転機器での展開

### RDコンバーター 付VRレゾルバ

アナログデバイス社との提携

11月よりサンプル出荷開始

### 電動パワーステアリング用モーター

フォルクスワーゲンLUPOへの搭載決定

(2000年9月29日付デルファイオートモーティブ社  
プレスリリースによる)

#### <自動車用回転機器>

最近のトピックスを2つご説明します。

1つ目は、アナログデバイス社とのVRレゾルバ用RDコンバーターに関する提携です。

モーターの制御を行う為には、モーターシャフトの回転数や回転角度等の検出を行う必要があります。その検出装置には多種多様なものがありますが、その一つがVRレゾルバとRDコンバーターを組み合わせた装置です。

今回のアナログデバイス社との提携の狙いは、これまでコスト的に高いと言われていた、RDコンバーター付きVRレゾルバを安く大量に生産できる様にすることにあります。当装置のターゲットは、既に当社が生産中の電動パワステ用モーターの制御、ハイブリッドカーや電気自動車等のエンジンモーターの制御、ヘッドライト光軸の左右方向の角度制御等であり、国内外の自動車メーカー、自動車用機器メーカーから強い関心が寄せられています。

2つ目は、ミネベア製モーターを搭載した電動パワーステアリングのフォルクスワーゲンでの採用です。

これまで当社のモーターを搭載した電動パワーステアリングは、フィアットのプントという車に使われていましたが、新たにフォルクスワーゲンのルポという車種に搭載されることが9月29日付けでデルファイオートモーティブ社により発表されています。

RDコンバーター付きVRレゾルバの様な今後の需要に対する事前準備や、電動パワステ用モーターの様な相次ぐ量産モデルへの搭載による他社に先駆けた実績作りは、自動車用回転機器市場における当社の将来の発展に必ずや大きく貢献すると信じています。

自動車用回転機器分野に関する当社の戦略は以下の通りです。

## 自動車用回転機器の戦略

1. 小型回転機器のみ生産
2. タイを中心に全量海外生産
3. 提案型販売戦略(高付加価値化)

1. あくまで自社のノウハウが最も生かせる小型モーターやVRレゾルバといった小型回転機器を作る事
2. 製品により高い価格競争力を持たせる為に、全ての製品をタイを中心とする海外で生産する事
3. 自動車用モーターやVRレゾルバに関しては、当初より一貫して、提案型の販売戦略を取り、高付加価値製品に特化する事

### まとめ

3カ年計画の最初の6ヶ月は非常に順調な立ち上がりを見せており、上期においても既に170億円を超える営業利益を出していますので、下期の営業利益目標の180億円も問題無く達成できるであろうと推測しています。

なお、今下期には、来年の経営目標を達成するための準備や、当社の財務体質を更に強化する施策を、強力に推進して行きたいと考えています。